

# YAMAKADO NEWSLETTER

NO.143

2011/10/20

山門水源の森を次の  
世代に引き継ぐ会

## ユキバタツバキ密集帯保全作業進む



林床整備を終えた部分



やまかど・森の楽舎

山門水源の森を特徴付ける植物にユキバタツバキがある。この植物は森の全域に点在分布しているが、北分岐からアカガシの森周辺に密集帯があり毎年多様な色合いの花を咲かせる。特にコースの南側凹地には人が通るのも困難なほど密集している。このユキバタツバキ密集帯については、これまで特別な保全作業を実施してこなかった。雪や台風などによる倒木や落枝によってユキバタツバキが倒れたり、周辺木の密集により日射不足になっていた。9月中旬から集中的に整備作業を始めています。倒木や落枝の整理・除伐によってさながら『椿苑』の様相を呈するようになってきました。幸いこの樹はシカの食害は見られませんがシーズンには素晴らしい景観が楽しめることになります。

春先から今年は樹木の豊作の年であると本紙でも度々報告してきたが9月の台風で未熟な実の多くが落下した。頂上に近い

部分ほど風が強くミズナラは未熟で全部落果。ブナも落果が多かったが、滋賀県森林センターの発芽実験用の採種

ブナの種子



依頼を受けて10月17日採種を行ったが未熟・虫喰いも多く水選した結果完熟したものは40%であった。



ブナの採種を行ったブナ林 (11/10/17)



## 河床浸食防止のための堰堤設置



湿原への土砂流入防止のための浚渫作業と並行して湿原からの漏水を防止するための河床浸食防止のための堰の設置作業を5カ所で行いました。



炭焼きをしていた森の観察 (11/10/03)

## 地域の小学生自然学習に



ナツハゼを賞味する2年生 (11/10/07)

地元の小中学校の環境教育や自然学習や中学生のボランティア活動の機会が増加してきました。地域の子どもたちが、地域の潜在的な自然財産や自然のおもしろさに気づいてくれ、次の世代を担ってくれることも夢ではなくなりつつあります。保全活動の輪が早くから参画して貰っている老人会の皆さんからさらに広がってきました。



中央湿原でサンプリング中の熊田氏(11/10/11)

PHOT-ITHO

●保全作業・来訪者ガイド等々に追われる日々ですが、森の調査も続けています。今年は、立命館大学名誉教授吉田先生を中心とする関西クモ研究会のみなさんのご協力で「クモ」の調査が続いています。次の調査日は、**10月23日**です。興味のある会員は是非参加して下さい。11月には念願のボーリング調査を実施することが決まりました。

10月第1週から ZTV

で「フレッシュ!びわドロップ」で「山門水源の森」が放映されています。現在は後編が放映中です。案内は会員の中野栄美子さんです。

●森林の更新を目的とした除伐作業(2カ所)を落葉を待って実施します。除伐作業地は既に植生調査を完了しました。この除伐作業には、「淡海森林クラブ」も参画して貰います。50年近く放置されてきた里山の更新です。森林の更新ということだけではなく、昆虫の世界にも変化が起こることが他府県での事例では報告されています。どのような変化が起こるか引き続いて各種の調査を行っていききたいものです。植生調査時の下層植生調査で多くの実生が出てきます。成木とは異なった葉や茎・幹の状態になることも多く、その識別に難儀することもあり、実生の観察のため手当たり次第木の実を採取し発芽実験を行っています。



ZTVの撮影風景11/09/28)



発芽実験 (11/10/14)